

令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第7号

令和6年8月16日

山口県病虫害防除所

水稻の斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策について

注意報第2号（7月17日付）を発令し、水稻の斑点米カメムシ類の防除の徹底を呼びかけていますが、ほ場調査および予察灯調査で発生が多い状況となっています。今後も多発が予想されますので、以下のとおり改めて防除対策の徹底をお願いします。

1 対象作物 水稻

2 病虫害名 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等）

3 発生状況

- （1）8月上旬の巡回調査（出穂ほ場）では、斑点米カメムシ類の20回すくい取り平均虫数8.3頭で、平年（2.5頭）に比べ多かった（図1）。主要種は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシであった。
- （2）県内3か所の予察灯における7月11日～8月10日の斑点米カメムシ類5種の誘殺数は2,835頭で、平年（1,424頭）に比べやや多かった（表1）。

4 防除対策

- （1）薬剤防除時期（液剤等） ア）穂揃期と穂揃期7日後
イ）イネカメムシが多い地域：出穂期と出穂期7日後
- （2）粒剤で防除を行う場合は、液剤より3～4日早く散布する。
- （3）防除後、ほ場での発生状況を確認し、カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。
- （4）防除薬剤は、山口県農作物病虫害・雑草防除指導基準による。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

5 防除上注意すべき事項

- （1）イネカメムシの発生が多い地域では、周囲より出穂が遅いほ場は特に注意する。
- （2）水稻出穂後の草刈りは、斑点米カメムシ類の水稻への移動を促し、加害を助長するので避ける。
- （3）防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、畦畔も含めて防除を実施する。
- （4）斑点米カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- （5）粒剤は、クモヘリカメムシ、イネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、防除後の効果をよく確認する。

(6) 防除にあたっては、適正な薬剤散布作業の実施、農薬使用基準の遵守、ミツバチ被害軽減対策など安全で効果的な防除に努める。

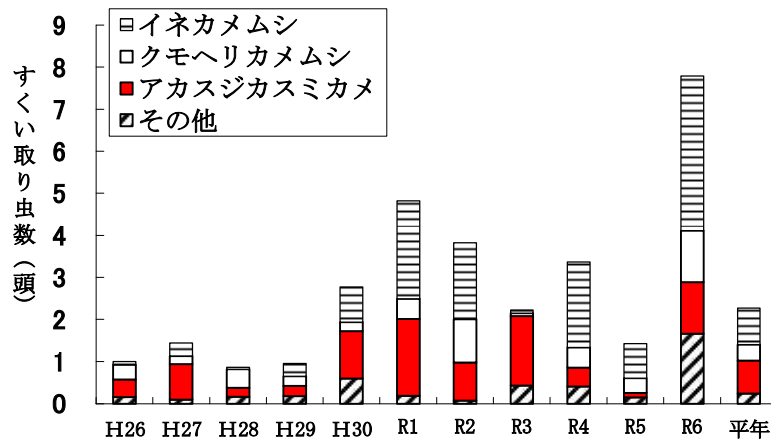


図1 出穂したほ場における20回すくい平均捕獲虫数 (8月上旬)

表1 予察灯における斑点米カメムシ類主要種の誘殺数(7月11日～8月10日、県内3か所合計) (単位：頭)

年度	大型種			小型種		合計
	クモヘリカメムシ	イネカメムシ	ミナミアオカメムシ	アカスジカスミカメ	アカヒゲホミトリカスミカメ	
令和6年	485	113	139	1873	225	2835
平年	65	83	28	1085	163	1424



写真1 クモヘリカメムシ成虫 (体長 15～17mm)

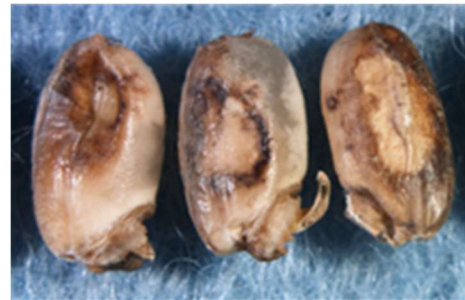


写真2 クモヘリカメムシによる被害粒 (斑点米)



写真3 イネカメムシ成虫 (体長 13mm 程度)



写真4 イネカメムシによる被害粒 (斑点米)

(参考) 用語解説

出穂期とは、出穂すると思われる全茎数の 40～50%が出穂した日
 穂揃期とは、出穂すると思われる全茎数の 80～90%が出穂した日